

# 用語説明

## (ア行)

### ■ ISO14001 (→ P.8, P.14)

国際標準化機構(ISO)により制定された“環境マネジメントシステムに関する国際規格”のことであり、組織が環境への負荷を改善していくための体制や手続きなどについて必要な事項を定めたものです。

### ■ 飲料水兼用耐震性貯水槽 (→ P.10)

地震・災害などで水道施設が被害を受け水道の水が出なくなった場合に、飲料水や消火用水を確保することができるよう、公園や小学校などの広域避難場所の地下に設置したものです。

### ■ 雨水増補管 (→ P.10, P.17)

大雨による浸水を防ぐために、従来の下水管の能力を補う目的で、新たに管路をつくり、雨水を流すものです。

## (カ行)

### ■ 加圧送水 (→ P.16)

水道管にポンプなど圧力を加える設備を設置し、水道管の持つ水圧に、不足分の圧力を加え、必要な水圧を得る方式です。

### ■ 上小阪配水場 つつじの市民開放 (→ P.7)

4月下旬頃、上小阪配水場内の「つつじ」を鑑賞してもらうとともに、水道事業の理解を深めてもらうために行っている行事です。

### ■ 企業会計 (→ P.8)

使用料などのその事業における収入で、その事業の経費をまかなうことを目的として設置される独立採算が原則である会計のことです。

### ■ 業務指標 (→ P.13)

水道や下水道のサービス水準を向上させるために、事業全般についての水準を様々な面から数値により示す指標のことです。

### ■ 拠点給水施設 (→ P.10)

震災等による断水時に市民の方が、近くの浄・配水場の配水池から飲料水を確保できるように設置されている給水栓(蛇口)などのことです。

### ■ 下水道光ファイバー (→ P.14)

一般の電線ケーブルに比べ、大容量のデータ通信が可能となる光ファイバーケーブルを、下水管路内に敷設して、情報通信網などに利用するものです。

### ■ 公共用水域 (→ P.5, P.6)

川、湖沼、港湾、海域など不特定多数の人に共有される水域のことです。

### ■ 公衆衛生 (→ P.5, P.6)

人々の健康の保持・増進をはかり、疾病を予防するため、衛生環境の改善や感染症の予防などを行うことです。

### ■ 合流式下水道の改善 (→ P.9, P.15)

汚水と雨水を同じ管で流す「合流式下水道」は、下水の処理能力を超える雨が降ると、雨で薄まった汚水がそのまま河川へ流れ、水質汚濁の原因となっています。

そのため、貯留や浸透施設などを設置し、「合流式下水道」の欠点を改善することで、水質汚濁を防ぎます。

## (サ行)

### ■ 上下水道モニター制度 (→ P.7)

市民、利用者を代表するモニターを公募して、アンケートを行ったり、懇談会や施設見学を通じて、意見や要望等を聴き、上下水道事業運営の参考としていくために行っている制度です。

### ■ 小水力発電 (→ P.16)

大規模なダムを設置したダム式水力発電に対して、水道水を送るための圧力などを利用した小規模な発電設備により電気をおこすことです。

### ■ 自動水質監視モニター (→ P.9)

配水管の水圧や水質の状態を24時間、自動で観測する装置のことです。水走配水場でモニターから送られてくるデータを一括管理しています。

### ■ GLP(優良試験所規範) (→ P.15)

安全性試験等の精度を維持するために、設備、組織、操作等の手順等について定めた管理基準のことです。

■ **浸水防除** (→ P. 5, P. 6)

浸水を防ぎ、被害を取り除くことです。

■ **説明責任** (→ P. 8, P. 13)

企業や行政がお客さまや地域住民に組織の活動や経営内容などについて説明を行う責任のことです。

■ **双方向コミュニケーション** (→ P. 11)

事業者からの一方的な情報発信だけではなく、インターネットなどを利用して、利用者からの意見や地域情報を受け、事業に役立てるとともに、事業者と利用者が、お互いに情報を共有することです。

(タ行)

■ **多系統化** (→ P. 17)

水道水を1つの水源や配水池から1系統で給水区域へ送るのではなく、複数の水源や配水池から複数の系統により送れるようにすることです。これにより、1系統が事故などにより破断した場合でも、他の系統から水道水を送れるため、断水などの被害を最小限に抑えることができます。

■ **貯水槽水道** (→ P. 12)

マンションやビルなどに設置される、水道水をためる施設(受水槽・高置水槽)やこれに付随する施設の総称です。

(ナ行)

■ **ノンポイントソース** (→ P. 15)

工場や排水路など水の汚れの発生元を特定できるものをポイントソースといいます。それに対して、道路や農地など水の汚れの発生元を特定できないものをノンポイントソースといいます。

(ハ行)

■ **ファイヤーウォール** (→ P. 10)

組織内のコンピュータネットワークへ外部から侵入されるのを防ぐシステムや機器のことです。

■ **ブロック化** (→ P. 16)

配水区域を、小さく分割して管理することです。水圧、水量、水質などの管理や、適正化が容易となるほか、災害、事故等の影響を少なくすることや、早期復旧が可能となります。

■ **豊富低廉** (→ P. 5, P. 6)

たくさんあり、安価であることです。

(マ行)

■ **マネジメントシステム** (→ P. 14)

事業者が目的を定めて取組を進めるにあたり、方針や目標等を自ら設定し、これらの達成に向けて継続的に取り組んでいくことを「マネジメント」といい、このための組織的な仕組み(体制や手続きなど)のことです。

■ **水の楽習ルーム(上下水道出前教室)** (→ P. 7)

市内の小学校へ職員が出向いて行う体験型の授業です。「楽習」は、水のことを楽しく習うという意味でつけた造語です。

(ラ行)

■ **リスクマネジメントサイクル** (→ P. 18)

リスクを適切に処理するために、組織が求めるリスク対策の基本方針にもとづき、リスクの特定・分析・評価・対策を行うという一連の流れを継続的に繰り返して、最も効果的にリスクを処理するための仕組みのことです。

(ワ行)

■ **ワンストップサービス** (→ P. 11)

1つの窓口でさまざまなサービスを、複合的に提供することです。例えば、従来は別々の窓口で行っていた行政サービスを1つの窓口でできるようにすることです。